

## 1 学期始業式

皆さんおはようございます。令和2年度が始まりました。ここにいる一人ひとりが、気持ちも新たに今日を迎えていることと思います。

皆さんもよく知っているように、セミやトンボなどの昆虫、エビやカニなどの甲殻類、ヘビやトカゲなどの爬虫類はいずれも「脱皮」を繰り返しながら成長していきます。一方、我々人間も、一生のうちに何度も内面的な「脱皮」を繰り返しながら成長していきます。その時期は人それぞれ異なりますが、少なくとも、「環境」が変わることで、その契機となるケースが多いように思います。

「環境」が変わることで、新たな「自覚」が生まれ、それが「意識」や「行動」の変化となって表れる。これを「成長」というのだと思います。皆さんも、令和2年度を迎え、「環境」が変わりました。3年生は最高学年に、そして受験生に。2年生は学校の中核に、そして先輩になりました。その「自覚」の上に立ち、「意識」や「行動」を一段高いレベルに引き上げて、新入生の模範となる「成長」した姿を見せてほしいと思います。

ところで、俳人、高浜虚子の句に、「春風や闘志いだきて丘に立つ」という句があります。私は春になるといつもこの句を思い出し、身の引き締まる思いがします。「春風」は「はるかぜ」と読むという説と、「しゅんぷう」と読むという説がありますが、いずれにしても、この句は、暖かく柔らかな春の風に吹かれながら、「よしやるぞ」という闘志を抱いて丘の上に立っている、という意味です。真っすぐ前を見つめたまま、凜として丘に立つ高浜虚子の自信に充ち溢れた姿が目浮かぶようです。

実は、この句は大正二年に詠まれたもので、季語や定型にこだわらない河東碧梧桐などの新傾向俳句に対して、俳句の伝統を尊重し、それを守ろうとして立ち上がった高浜虚子の強い決意が込められています。皆さんはこの句から何を感じ取りますか。多くの人を感じ取るのは、「闘志」「勇気」「力強さ」などではないかと思います。私はそのほかに「初々しさ」「純粹さ」も感じます。というのは、つらく面倒なことを避けようとする若者、挫折を恐れて尻込みする若者、計算高くすぐに見切りをつけて諦めてしまう若者、そんな若者が最近目立つ中で、何かしら不安を抱きながらも、沸々と心の中から湧き上がる熱い思いを貫こうとする姿勢。そんな姿勢がこの句からはうかがわれ、私はそこに「初々しさ」「純粹さ」を感じるのです。

さて、自分に限界を作ってしまうと、そこで成長は止まってしまいます。今、皆さんは、勉強や部活動に、心機一転「よしやるぞ」という「闘志」を抱いていることと思いますが、その裏にある「初々しさ」「純粹さ」を失うことなく、沸々と心の中から湧き上がる熱い思いを貫いてください。そして、自分に限界を作らず、自分の無限の可能性を信じ、自分の夢、自分の未来に向かって、ひたすら邁進し続け、成長し続けてください。そんな充実した令和2年度にしてくれることを切に願っています。

最後に、新型コロナウイルスの感染が拡大し、昨日兵庫県に緊急事態宣言が出されました。それにより、5月6日（水）まで臨時休校となりました。よく「ピンチはチャンス」と言われます。その間、学校から出される課題を含め、学校での学習活動と同じく1日最低6時間、計画的にじっくり学習と向き合い、学力を大いに伸ばす機会、チャンスにしてください。

そして、不要、不急の外出、人が密集する場所への外出は避け、やむなく外出した場合でも、手洗い・消毒とマスクの着用を徹底し、皆さん一人一人が感染予防に努めてください。

また、感染症対策について、糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患、透析、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている場合、その他重症化するリスクが高い場合は、必ず主治医と相談の上、学校に知らせてください。

それでは、「春風や闘志いだきて丘に立つ」

今日は皆さんにこの句を贈って式辞とします。